

令和 6 年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4 年間の目標 (令和 6 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2 月 25 日実施)	総合評価（3 月 13 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	1 「キャリア教育」の視点、「シチズンシップ教育」の視点を踏まえて、教科横断的な授業を定着させる。 2 ICT の利活用を推進する。	1-① 各教科等の 3 年間の内容表を完成させる。 1-② 教科等横断的な授業の試行を行う。 2 一人一台端末の管理マニュアルを作成する。	1-① 教科会や学年会の中で学習指導要領に沿って具体的な内容を作成する。 1-② 校外での学習等において教科等横断的な授業を試行する。 2 他校や教育委員会と情報を共有しながら管理方法のたたき台をつくり、精査する。	1-① 3 年間で学習指導要領の内容が達成できた内容表を完成させることができたか。 1-② 教科等横断的な授業の試行ができたか。 2 一人一台端末の管理マニュアルを作成できたか。	1-① 概ね学習指導要領の内容が達成できる学習内容表を完成させた教科もあるが、具体的な内容を盛り込めていない学習内容表もあった。 1-② 校外活動後の各学年のアンケート実施により、教科等横断的な授業の実践を把握した。 2 他校や教育委員会と情報を共有しながら管理方法のたたき台をつくり、他グループや学部と相談し、精査することができた。 一人一台端末の活用方法についてのルールや情報モラルについて、パワーポイントや動画を準備し、学校全体で統一した学習を進めた。教員向けの研修も行った。	1-① 学習指導要領の内容を網羅し、具体的な内容を盛り込んだ 3 年間の学習内容表の作成を続ける。 1-② 教科等横断的な授業を日常の教科学習にもつなげていく。 2 教育委員会から正式な管理方法に関する通知を受け取り次第、改めてその内容を精査し、正式な管理マニュアルを作成していく。 一人一台端末について、どのような授業でどのように活用しているかを検証する。	【アンケート】 ・授業はわかりやすいですか(そう思う・少し思うの合計) 生徒 84%・保護者 89%・教員 95% ・毎日元気に通える場であり、楽しく学べている。 ・授業や実習の内容の目的や意図を教えてくださいとフォローしやすい。 【アンケート】 ・ICT 機器を使用した授業が行われていますか(そう思う・少し思うの合計) 生徒 83%・保護者 81%・教員 95% ・クロームブック、大型電子黒板の導入により授業で活用ができています。	1-① 教科会ごとのスケジュールに従って検討を進めてきたが、検討途中での全体確認が難しかったため、具体的な内容が盛り込めていない教科もあった。 1-② 校外での学習についての教科等横断的な授業の試行を実施し、教員の意識徹底を目指した。 2 管理マニュアルのたたき台を作成した。生徒に向けて、情報モラルについての学習を進めた。教員の研修は年に 3 回実施した。	1-① 検討途中で内容や進捗状況の確認をしながら進めていく。学習指導要領の内容を確認しながら作成する。 1-② 他の教科等にも拡大し、教科等横断的な授業の実践を継続していく。また、年間指導計画にも反映させていく。 2 さらに ICT 機器の活用を推進していくために、活用事例の収集と教員への研修を徹底し、授業改善にもつなげる。ネット社会問題も取り上げる。
2	(幼児・児童)・ 生徒指導・支援	1 生徒個々の長所、強みに着目する視点を重視して、実態を把握し、ニーズに応じた指導、支援を行う。 2 生命(いのち)の安全教育を推進し、生徒が安心して学べる環境をつくる。 3 生徒自らの安全確保につながる意識を育てる。	1 生徒の実態を見立てる力をつけるためのアセスメント活用の仕組みをつくる。 2 自分自身を大事にするための意識を育てる。 3 災害時等に身の安全を考えて行動する意識を育てる。	1 校内のアセスメントの結果を指導、支援に活かすためのフローチャートを作成する。 2 携帯電話教室、サイバー犯罪教室、いのちの授業や性教育等の授業を設定し、内容を整理する。また、教員の人権意識を高めるための研修を設定する。 3 防災教育や防犯教育の中で、自らの安全について自分事として考える場面を設定する。	1 フローチャートを作成することができたか。 2 授業や振り返りの中で自分を大事にする気持ちをもてたことを発言やアンケートで確認することができたか。また、研修を実施して振り返ることができたか。 3 生徒が自らの安全について振り返ることができたか。	1 太田ステージの評価を個別教育計画に反映させるタイムスケジュールを作成した。 2 携帯電話教室、サイバー犯罪教室では、内容を整理し、約 70%の生徒が「自分を大事にする」とのアンケート結果となり、その意識が高まった。また、「ベップトーク」の研修を行い、「いいとこ探し」の授業などで生徒に対するポジティブな言葉かけや生徒の発言の言い換え支援ができ、人権擁護の意識が高まった。 3 1・3 学年で起震車・火災煙体験を実施した。事前に行った AR 体験で学んだことを活かし、姿勢を低くする、ハンカチで鼻と口を覆うといった基本的な動きが指示される前に行っていた。	1 生徒個々の長所、強みに着目して、太田ステージ等様々なアセスメント結果を整理していく。 2 様々な「教室」の内容の精選やその検証を図りながら、継続をしていく。いのちの授業や性教育については、保健体育や家庭生活の教科会を中心に、3 年間を見通した学習内容表の作成を継続する。 3 体験後の振り返りでは「地震の怖さを知った」だけでなく、「楽しかった」という感想も多くあった。自らの安全について考えられるような事前学習の工夫が必要である。	【アンケート】 ・個別教育計画の適切な作成と活用がされていますか(そう思う・少し思うの合計) 保護者 97%・教員 93% ・生徒が安心して学べる取組をしていますか(そう思う・少し思うの合計) 保護者 77%・教員 91% ・いじめアンケートの設問が難しく、設問内容や実施方法などの見直しが必要であると感じる。 ・異性との接し方についての研修が必要である。 【アンケート】 ・防災教育で「身の安全を守る」取組が行われていますか(そう思う・少し思うの合計) 保護者 87%・教員 79% ・様々な取組がなされている。	1 校内のアセスメントの結果を指導・支援に活かすためのフローチャートを作成した。様々なアセスメントの結果を今後の指導に活かせるように整理する。 2 継続した授業の中で「自分自身を大事にする」と振り返りで思えた生徒が増えた。「教員は人権配慮と丁寧な指導を行っている」との高い評価を得た。 3 起震車・煙体験・AR 体験・避難について自分で考えるなどの活動をとおして、自分事として考えられる生徒が増えた。	1 個別教育計画の作成と活用は、高い評価である。1 学年より新書式となり、読みやすく活用しやすい書式を展開する。よりの確に実態を見立てる力をつけるための研修を積む。 2 生徒の自己理解を深めるためにコミュニケーションの授業などで内容を精選して取り組む。教員の人権研修を実施し、生徒の指導に活かす。 3 生徒が災害時に危険を回避する方法を考えられるような体験を積み重ねる。引き続き防災教育の充実を図る。
3	進路指導・支援	1 将来の充実した生活を目指して、生徒個々の発達段階に応じた進路指導、支援を行い、希望する進路の実現と定着支援を図る。	1 生徒の実態に応じた系統性のある指導内容表を作成する。	1 職業の授業の活動内容と実施時期の洗い出しを行う。また、教科会を活用し進路担当等の様々な視点をもって「就労準備性ピラミッド」を基に進路学習内容一覧の主な実施学年の見直しを行う。	1 活動内容や実施時期の洗い出しを行い、系統性のある指導内容表を作成することができたか。	1 3 学年の活動内容とそれらの実施時期等を洗い出し、就労準備性ピラミッドと照らし合わせながら学習単元の整理を行った。また、生徒自身の課題をどのように扱うかなど、実習前後の学習内容も含めた指導内容表の作成を進めた。	1 教科等横断的な進路指導が行えるよう、指導内容の校内での共有を行う。指導内容表を活かしながら職業の年間指導計画の作成にあたる。	【アンケート】 ・家庭と協力した進路指導・支援や個々に応じた情報提供が行われていますか(そう思う・少し思うの合計) 保護者 94%・教員 97% ・進路指導の手引きや職業の 3 年間の内容表はすばらしい。 ・将来の給料など労働での対価について生徒が理解できる取組を期待する。	1 3 年間の系統性のある「進路指導」の指導内容一覧を完成させることができた。年間計画との関係や進路校外学習との関係については、今後整理が必要である。保護者からも「進路指導の充実」に関して期待する声が多く上がっている。	1 完成させた指導内容一覧の検証や各学年が年間指導計画や各教科等に落とし込んでいくこと、系統性のある進路校外学習について整理が必要である。保護者からも「進路指導の充実」に関して期待する声が多く上がっている。 授業をとおして、生徒が将来やりたいことを考えることができるようなアプローチを行っていく。

	視点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月25日実施)	総合評価（3月13日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	1 学校と地域が連携・協働して、共生社会の実現に向けた活動を行う。	1-① 生徒が地域の中で活躍できる学習活動を行う。 1-② 地域と一緒に防災教育に係る活動を行う。	1-① YOKOHAMA SEYA ガパオ祭りの参加や他校との交流の中で、生徒が主体的に取組める仕掛けや地域の方と関わる場面設定をする。 1-② 防災教育(避難所体験)で地域の方と協力をして、一緒に活動する場面を設定する。	1-① YOKOHAMA SEYA ガパオ祭りの参加や他校との交流で生徒が活躍できる活動を展開し、生徒が事後学習で振り返ることができたか。 1-② 避難所体験を通して、地域の方と一緒に活動ができたか。	1-① 一年をとおして、それぞれの作業班が校外での活動を継続し、生徒の達成感や自己有用感を高めることができた。 よこひな祭の模擬店準備では、近隣高校文化祭で得たインスピレーションを活かしながら、3学年で協力し装飾することができた。 YOKOHAMA SEYA ガパオ祭り参加の横浜市立特別支援学校生徒と本校有志生徒で商品開発オンライン会議を行った。他校生徒と共同でよい商品を作るための意見交換を活発に行うことができた。 1-② 2・3学年で、地域の方に協力していただき、避難所体験を実施した。	1-① 本校の理念である「自己実現」について、作業班の活動は、その気持ちを育むひとつとなっている。引き続き、地域のニーズに応えつつ、地域と協働で行える活動を計画し、実施できるよう、地域との連携を強化する。 1-② 生徒の実態に合わせた体験ができるよう、地域の防災物品についての知識を得る必要がある。	【アンケート】 ・地域や関係機関との連携を進めていますか(そう思う・少し思うの合計)保護者 81%・教員 93% ・庭の清掃や銀杏の葉の清掃は大変助かった。引き続きお願いしたい。 ・コロナ禍、働き方改革があり、地域とのつながりが止まっている中、様々な取組がなされている。継続してほしい。 ・グループ業務のおかげで実施できている。各学年での取組となると難しい面がある。 ・地域との避難所体験の経験はとてもよい。 【アンケート】 ・生徒・保護者・他校に対し、教育相談を実施していますか。(そう思う・少し思うの合計)保護者 75%・教員 90% ・活動がわからないと回答した保護者が 18% 【アンケート】 ・わかりやすい情報提供に努めていますか(そう思う・少し思うの合計)保護者 94%・教員 98% ・HP で保護者限定で閲覧できる内容がほしい。	1-① 今年度は、近隣支援校とのオンラインでの意見交換や近隣高校の文化祭見学、近隣小学校とのやりとり、近隣宅の庭や道路の清掃など活動の幅が広がった。それらの活動を知ってもらう機会が少なかった。 1-② 地域防災拠点のメンバー7 名の方が来校し、ボランティアとして生徒と一緒に活動をしていただいた。また、防災備蓄庫の物品を借りて簡易トイレや寝袋、手回しランタンなどの体験をすることができた。 2 「年間の相談の流れ」を共有できたことは、成果であった。1学年で実施した教育相談週間のフィードバックはその後の指導に有効であった。	1-① 一年をとおして作業班が地域での活動を継続、充実させることができ、「社会に開かれた教育課程の実現」に向けて一定の成果を得ている。また、新しい取組にも挑戦することができた。それらの活動の発信を積極的に行っていく必要がある。 1-② 生徒にとって有意義な活動となった。引き続き、地域防災拠点メンバーに、一緒に活動ができるように協力を仰ぐ。
		2 支援教育の充実を目指し、センタ－的機能を発揮する。	2 改めて、校内支援体制の充実を目指し、相談できる環境づくりを進める。	2 「相談の手引き」の素案づくりと「人材バンク」や校内資源の活用呼びかけ等を行う。	2 「相談の手引き」の素案を作成することができたか。また、相談の流れの見える化や呼びかけにより相談できる環境をつくることができたか。	2 相談の手引きに関連して、「年間の相談の流れ」を作成し、校内で見通しがもてるよう共有した。	2 ケース会や医事相談などの「相談」がより浸透するよう学年・学部内に働きかけを行う。		2 「年間の相談の流れ」を共有できたことは、成果であった。1学年で実施した教育相談週間のフィードバックはその後の指導に有効であった。	2 生徒の指導に活かすための相談できる環境づくりを進める。相談班の校外での活動についても積極的にHP で発信していく。
		3 ホームページを活用した情報発信を充実させる。	3 ニーズに合った内容を掲載し、情報発信の手段としてのホームページの活用を推進する。	3 掲載記事の更新回数を増やして常に新しい内容が掲載されるようにする。また、保護者向けのニーズ調査をして保護者が知りたい情報を掲載できるようにする。	3 更新回数を増やして、新しい情報を発信できたか。また、ニーズ調査で必要とされる情報を確認し、ホームページに活かすことができたか。	3 生徒の活動の様子を紹介する「よこひな日記」を掲載することで、更新回数が増えた。また、保護者を対象に調査を行い、「生徒の活動や美術作品など授業の制作物を見たい」というニーズが多いことがわかった。	3 美術作品などをホームページにアップする際に、著作権について本人・保護者の確認をどのような手続きで行うか、負担にならない方法を検討し、実施していく。		3 「よこひな日記」で生徒の活動の様子を伝えられた。保護者からは「いつ更新したのかわからない」との意見もある。	3 引き続き HP の更新回数を増やす。二次元バーコードを集めた紙を配付しアクセスできるよう工夫する。
5	学校管理 学校運営	1 教職員の専門性や人権意識、服務規範意識の向上を図る。	1 人権研修や不祥事防止研修をとおして、人権や不祥事に関する意識を深める。	1 研修の講師や内容、方法を吟味して計画立案をする。協議するグループを工夫して研修を行う。	1 研修後にアンケートを取り、振り返ることができたか。また、研修の方法を工夫できたか。	1 1月の不祥事防止研修では、年齢、経験の違うメンバーのいるグループにわかれて「チーム力向上ゲーム」を実施した。そのゲームの感想や意見について協議したことを職員会議で発表した。今年度の目標のひとつであったグループ協議は、達成できた。 2 一人ひとりの時間外勤務時間を表にして4月からの時間の変化を伝えた。年度当初は、45 時間を超えていた職員の数が8人であったが、12月は0人であった。	1 不祥事防止研修は、講話を聞くだけでなく、研修の方法を工夫しながら実施すると、取組み姿勢について、効果的であることがわかった。今後も工夫しながら取り組んでいく。	【アンケート】 ・人権配慮と丁寧な指導を行っていますか(そう思う・少し思うの合計)保護者 93%・教員 89% ・教員が生徒の見本となることが大切と感じる。 【アンケート】 ・教員は専門性を向上し活かしていますか(そう思う・少し思うの合計)保護者 71%・教員 89% ・授業力向上など徹底すべき課題と感じる。 【アンケート】 ・時間外勤務時間を減らす、業務の精選の意識についての意見 ・生徒指導以外の業務の整理を願う。 ・業務量や授業量に偏りがあり、フルタイムの教員の負担が大きい。	1 不祥事防止研修や人権研修は、内容や方法を工夫することにより、意識の向上に効果があった。Formsを活用した振り返りは、意見を吸い上げるのに有効であった。	1 教員の意識を高めるため、社会情勢を捉え、ニーズに即したテーマや内容を設定し、専門性の向上を目指す。教員の研修している様子も広く知ってもらう必要がある。 2 衛生委員会からの教職員の健康に関する発信、業務の精選や効率化への発信や取組み、産業医面談など継続して行っていく。
		2 教職員の健康管理を徹底する。	2 月 45 時間以上の時間外勤務者を把握し、その人数を減らす。	2 勤務時間管理システムにて時間外勤務者の把握と管理職や産業医による面接を徹底する。	2 管理職や産業医の面接を実施したり、業務の効率化を取り入れたりする等して、人数を減らすことができたか。	2 一人ひとりの時間外勤務時間を表にして4月からの時間の変化を伝えた。年度当初は、45 時間を超えていた職員の数が8人であったが、12月は0人であった。	2 月によっても 45 時間以上の時間外勤務者の人数は変わる。引き続き、人数の把握と声かけや面接は実施していく。		2 月によって、仕事の忙しさはあるが、年間をとおして、45 時間以上の時間外勤務者の人数は減少した。一日の中での時間の使い方を意識できていると感じる。	2 衛生委員会からの教職員の健康に関する発信、業務の精選や効率化への発信や取組み、産業医面談など継続して行っていく。
		3 業務の効率化や職場環境の整備と促進を図る。	3 現状の業務内容の把握や課題の洗い出しと改善策を見出してできることから実施する。	3 職員から意見を聴取して課題を整理するとともに改善策の提案をして実行に結びつける。ICT 機器を活用して会議を短くする工夫をする。	3 職員から意見を聴取して課題を整理することができたか。ICT 機器を活用して会議の時間を短くすることができたか。	3 総括教諭が作業や授業に入ること、教員の教材研究の時間の確保につながった。teams のチャットの活用は定着し、連絡はチャットを活用しているグループもある。欠席等連絡システムでの連絡は、早退・遅刻も含めると約 46%の保護者が利用している。	3 業務の効率化に向けて継続できることについては、引き続き取り組む。年度末に向けて、引き継ぎ資料の作成、フォルダの中の整理を徹底していく。		3 teams のチャット、Forms でのアンケートの回答、欠席等連絡システムは、時間の活用において有効であった。教員の仕事内容に偏りがあり、業務の平準化に課題が残る。	3 teams のチャットの活用は有効であり、今後は、チャットや ICT 機器を活用して会議の時間短縮にもつなげていきたい。